

目次

- ・平成29年九州支部春の行事のご報告 ～熊本地震被災地域視察(熊本城、サントリー(株)熊本工場阿蘇地区)～ ……千々木亨 (pp. 1-4)
- ・東北の会からのお知らせ「松尾芭蕉の足跡を巡る—多賀城から松島へ」のご案内……佐藤正明 (pp. 4-5)
- ・平成30年度 京機会総会のご案内 (pp. 6-7)
- ・京機会事務局が20周年を迎えました! ……運営委員会 (p. 8)



平成29年九州支部春の行事のご報告

～熊本地震被災地域視察(熊本城、サントリー(株)熊本工場阿蘇地区)～

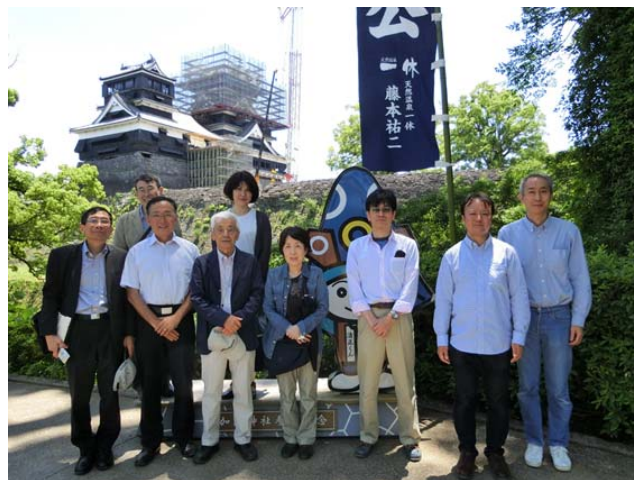
千々木 亨 (S54/1979卒)

九州支部では去る平成29年5月27日、28日に平成29年度春の行事を行いました。今回は、熊本大地震の被災地域を訪問し復興状況を視察しました。ご家族の方を含む16名の方々がご参加下さいました。地震は日本中どこでも発生する可能性があるだけに、ご参加の皆様も熊本の震災への取り組みから多くを学ぼうと大変熱心に視察頂されました。以下概要をご報告いたします。

まず熊本城の被災状況と復興活動を視察しました。天守閣には近寄れませんでした。ボランティアガイドの方が城郭を一周して案内下さいました。熊本城は戦国時代前期に建てられた隈本城の立地に加藤清正が建てた本格的な

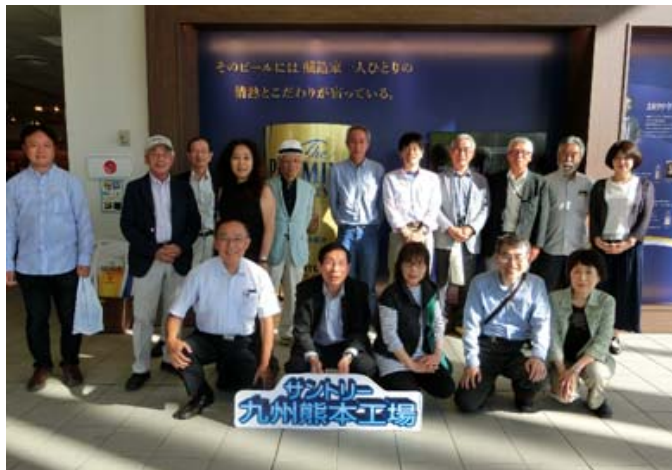


平山城で難攻不落の名城として有名です。南東に流れる白川を外堀に見立て、支流の川を再編して運河として計画的に周囲に引き込み、水害に対する防災機能と防衛機能を持たせると共に、交通の利便性を高めることで熊本の街づくりを促進しました。今回多くの石垣や建物が地震で損壊しましたが、算木積みと呼ばれる工法で積まれた建設当時の石垣は崩壊を免れ、櫓のコーナー部の足元をなんとか支えていました。奇跡の一本石垣と呼ばれているそうです。熊本城の石垣は地震の時に石垣の中の応力を分散出来るよう栗石という回転可能な石を組み込んだ柔構造となっており、今回の地震でも多くの部分で石垣の崩壊を防ぐ効果がみられました。残念ながら崩壊を逃れた石垣の多くではらみ出しという歪みが生じており今後の修復の大きな課題となっているそうです。



注目されているのは、1889年の地震の時に修復された石垣の八割が崩壊したのに対し、加藤清正時代の古い石垣の多くが損壊を逃れたことです。明治時代の修復方法の欠陥について議論されているそうです。かかる説明を聞き、地震国日本で培われた耐震技術のレベルの高さを再認識しました。今の天守閣は西南の役で焼失したものを1960年に再建したのですが屋根や石垣のかなり激しく損傷しています。熊本市民のシンボルであることから天守閣の復旧を最優先し、3年間で修復することになったそうです。その他の城郭や建物の修復には20年かかるということです。転がり落ちた石垣をひとつひとつ確認し、コンピュータシミュレーションを駆使しながら元の位置に戻す気の遠くなるような作業なのですが、熊本市民は当たり前のように取り組んでいました、長い歴史の中で熊本を支えてきた熊本市民の意地と心の強さを感じました。昼食は熊本市街まで移動し、熊本名物の馬肉料理を堪能しました。

午後からはサントリー(株)熊本工場を視察しました。この工場も大きな被害を受け、今年の4月からやっと工場見学対応が出来るようになったそうです。まだ充填設備の半分は休止していましたが、まずプレミアムモルツの生産を主軸に操業を元のペースに戻すべく努力しているとのことでした。サントリーの「水にこだわり原料にこだわる」ビール造りを徹底しており、ものづくりを生業とするプロの意気込みを感じました。



その後、地震の被害の大きかった西原村を通り抜け南阿蘇へ移動しました。途上ではブルーシートのかかった家が散見され、山崩れの跡も各所にみられました。幹線道路も交通止めとなっている部分が多く、何度も迂回を余儀なくされ、今回の地震の爪痕がまだ残っていることを実感しました。夕刻は三菱重工(株)様のご厚意により三菱重工(株)阿蘇高原クラブで懇親会を行い、大いに盛り上がりました。明朝、阿蘇大橋崩落現場近郊を視察しました。阿蘇大橋の近くはどこも交通止めで多くの旅館や観光施設が休業を余儀なくされていました。その後、白川水源、幣立神宮を見学した後、熊本方面と小倉方面の2グループに分かれ阿蘇地域を巡りました。



小倉方面のグループは阿蘇神社へ訪問しました。重要文化財の楼門と拝殿が倒壊し、その惨状が全国に報道され心配しておりましたが、現地で最も重要な3つの神殿がいずれも無事であることを確認出来、安心しました。阿蘇神社は1300年以上の歴史を持つ古い神社ですが、建



造物は加藤清正時代から何度も修復立て直しが行われており、神殿や倒壊した拝殿や楼門も江戸時代後期の建物です。おそらく何度も地震に見舞われ、その度に培われた耐震技術が神殿に集約されていたのかもしれませんが。その後、赤牛料理を堪能し、初夏の阿蘇を満喫しました。一部のメンバーはシャープの商業でおなじみの鍋ヶ滝を訪れ爽やかな滝の涼風を楽しみました。



東北の会からのお知らせ

「松尾芭蕉の足跡を巡る-多賀城から松島へ」のご案内

佐藤正明 (S46/1971卒)

東北といえば、松尾芭蕉の「おくのほそ道」を思い浮かべる人も多いのではないでしょうか。この度、長谷川公一先生をお迎えし、講演を頂くと共に仙台の北および北東に位置する多賀城から松島へ向けて、松尾芭蕉の足跡を辿りながら、現地で解説をしていただく会を企画しました。

なお、長谷川先生は社会学がご専門ですが、冬虹という俳号をお持ちの俳人でもあり、句集「緑雨」(木語叢書)を出版されています。

遠方からもご参加いただけますようスケジュール調整しております。他支部会員の皆様のご参加も歓迎いたします。多数のご参加をお待ちしています。

日時：平成29年10月14日(土) 10:00～20:00

場所：東北歴史博物館ほか（多賀城市ほか）

参加費：2,500円（昼食代、東北歴史博物館入館料、松島・瑞巖寺拝観料）

日 程：10:00～11:20（受付後随時）

東北歴史博物館見学

11:20～12:00

講演会：「松尾芭蕉の足跡を巡る一多賀城から松島へ」

講師：長谷川公一 東北大学文学研究科教授

12:00～13:00

昼食及び自由時間

13:00～16:00

長谷川先生の案内により、多賀城碑（壺の碑）

（下記に概要説明）、松島・瑞巖寺等を見学

18:00～20:00

懇親会（金額、場所未定、仙台駅周辺を予定）

参加申込・問い合わせ：<http://www.keikikai.jp/shibu/tohoku/gyoji.html>

申込締切：平成29年9月25日（月）

幹事：佐藤正明（東北大学学際科学フロンティア研究所）

多賀城碑（つぼのいしぶみ）について

多賀城は古代より陸奥国の国府であり、9世紀の初めまで鎮守府も置かれ東北地方の政治・軍事の中心都市であった。

多賀城碑（写真転載）は多賀城市の北西部に位置する多賀城跡にあり、壺の碑（つぼのいしぶみ）とも呼ばれる。日本三古碑の一つであり、碑文から奈良時代の762年に建立されたと考えられる。芭蕉は1689年にこの地を訪れており、その時の状況が「おくのほそ道」にも記載されている。

講演会では、碑名「壺の碑」の由来や芭蕉が訪れた際の状況などの内容が解説されるものと期待しております。



覆屋内の壺の碑

（多賀城市観光協会から転載許可取得）

平成30年度 京機会総会のご案内

平成30年度の京機会総会を下記の通り開催いたします。本年度も京大ホームカミングデーと同日開催です。15:00からの総会・講演会はもちろんのこと、朝からホームカミングデー企画もお楽しみいただけるスケジュールとしております。当日は、是非、双方のイベントで一日お楽しみ下さい。懇親会では今年も好評の八寸料理をご用意いたします。是非、ご家族揃ってのご参加をお待ちしております。

◆日時：平成29年11月3日（金・祝） 15:00～19:30

◆会場：京都大学吉田キャンパス物理系校舎/百周年時計台記念館

〒606-8501 京都市 左京区吉田本町

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm

総会/講演会：京都大学吉田キャンパス 物理系校舎 3F 313室

懇親会：百周年時計台記念館 2F 「国際交流ホール」

◆行事：◎受付開始 14:30～ 物理系校舎 3F 313室

1. 京機会総会 15:00～16:15

2. 特別講演会 16:25～17:10



『「組織」対「組織」の産学連携による新たな価値の創造
～知能化技術が産み出す生産システムのイノベーション～』

田中健一氏（S56、京都大学工学研究科博士前期課程修了（航空工学専攻））

<三菱電機株式会社 開発本部 役員技監>

イノベーションを実現するためには「分野や文化の異なる人々と交流すること」が重要であると言われております。本講演では、知能化技術による生産システムの革新を例として、単独企業では成し得ない研究成果の創出のために、どのような産学連携の仕組みでこの課題に取り組んだかをご紹介します。

3. 対談 17:10～17:30

田中健一氏×榎木哲夫氏 『産学連携による共創と協働』

講師の話題提供を受け、産学連携で望ましいのは、概念実証型か社会実装型か、トップダウン型かボトムアップ型か、組み合わせ型か擦り合わせ型か、等の観点から、京都大学の強みと文化を生かし、産学双方が共に発展できる研究開発モデルとプロフェッショナル人材育成への貢献について対話します。

対談者：榎木哲夫氏（S56、機械理工学専攻教授・工学研究科副研究科長）

4. 集合写真 17:30～17:35

5. 懇親会 17:45～19:30

大好評の世界無形文化遺産「和食」の八寸料理を今年もご用意いたします。どうぞお楽しみに。



◆参加費（懇親会費）：

一般会員：5,000円 学生会員：1,000円

会員ご家族（高校生以上）：1,000円 （中学生以下）：無料

◆申し込み：下記よりお申込下さい。

<http://www.keikikai.jp/honbu/gyouji/gyouji.html>

締切：10月20日（金）

◆お問い合わせは、京機会事務局まで。

E-mail: jimukyoku@keikikai.jp TEL&FAX: 075-383-371

京機会事務局が20周年を迎えました！

運営委員会



山口美賀さん[†]、段智子さん、中村吉伸会長
([†]2003年卒 京機会事務アドバイザー、於：キャンパスプラザ京都)

京機会が、今年の8月1日で1997年の事務局発足から20周年を迎えました。あわせて、事務局の段智子さんも、入局20周年を迎えられました。そこで、7月22日に開催された運営委員会の席で、委員から感謝の言葉をお贈りしました。その中から一部をご紹介します。

- ★京機会、本部と支部がうまく連携してやって行けるのは、段さんのアレンジと笑顔のお陰です。どうも有難うございます。元会長 久保愛三
- ★長い付き合いになりましたが、まだまだお願いします。「京機会の段」というよりは「段の京機会」ですね。元会長 松久寛
- ★段さん、いつもいつもご苦労様。そして、ありがとう。あまり無理をしないで下さい。現会長 中村吉伸



厳しい暑さが続いております。みなさま、ご自愛下さい。